

政府の招待で来日中のパキスタンの大学生、高校生 23 人が 2 月 14 日午後、水戸市文京の茨城大学人文学部を訪問、人文学部の有志たちと交流会を開催した。



一行は、カラチなどの出身者で 15 歳から 20 歳。地元の名門校などで勉学に励んでいる。引率者を入れると男性 13 人に対し 12 人が女性。

約 1 週間の予定で日本訪問中の一行は、この日の午後 1 時半、バスで本学人文学部講義棟に到着、茨大生約 30 人が拍手で歓迎する中を階段教室へ移動、交流会がスタートした。

「ようこそ茨城大へ」「あなたたちの来日は、昨夜のテレビニュースで拝見しました。今日は、本学の良さを堪能してお帰り下さい」冒頭、茨大を代表して学長特別補佐の三村信男理学部教授が流暢な英語で挨拶した。

その後は、留学生センターの杉浦秀行講師と米留学生、本学の学生による茨大・茨城県を英語で紹介す

るイベントに移行。「茨大の学生数は」、「日本の大学の数は」などの質問に対し、パキスタンの学生が挙手して回答。名回答には、本学のロゴ入りボールペンが贈られた。茨城県を紹介するコーナーでは、納豆や干芋の試食会があり、使節団員は、目をシロクロさせて、茨城の物産品を楽しんでいた。



先方の要望に応じて設定した部活の紹介では、マジックサークル「アンビシャス」の 3 人が、それぞれ紐やリングなどを使った見事な数々の手品を披露、割れるよう

な喝采を浴びた。琴や三味線による邦楽研究会の演奏では、パキスタンではなかなか聞けることのない日本の伝統音楽に聞き入り、曲の終了後は、「アンコール」「アンコール」と注文が飛び交っていた。



午後 2 時半過ぎから人文学部 A 棟 2 階の教室に場所を変えて始まったメインイベントの交流会では、国際交流サークル「地球村」の面々が用意したグッズを使って、英語による自己紹介ゲームがディスカッションを楽しんだ。



双方合わせた 60 人が 10 グループに分かれ、「好きな食材」「訪れてみたい国」「将来の夢」などとい

ラストとともに英語で表記してあるカードを引き、それに応じて自分の希望を紹介するゲームである。

1 時間の交流会では、数人が着席するテーブルのあちこちから笑い声が漏れていた。途中で、司会者が「今日は 1 年のうちで特別な日」「バレンタインデーに当たります」と、その趣旨を説明し、袋の中にしまっていたチョコレートを出して配ると、一行からは歓声と拍手が挙がり、中のチョコを取り出して本学学生と一緒に味わっていた。



終了後は、剣道場に直行、剣道の稽古を見学、体育館ではトランポリン部の練習を見学後、数人が助けを借りて台に上がり、飛んだり跳ねたりにチャレンジした。

人文学部が用意した行程は、これで終了。お礼の言葉を一行の代表が述べ、これに伏見厚次郎学部長が終了の挨拶で応じ、一行は、午後 4 時半過ぎに帰途についた。 (以上)



